

こつほ みほ
小坪 美穂さん (26歳)

営農地:久留米市北野町
主な農産物:小ネギ専作



家の農業を継ぐのは、ごく自然なことでした

● 就農のきっかけ

農家で育ったわたし

小坪さんの実家は、施設園芸地帯である久留米市北野町で20数年、小ネギの専業農家をしています。農家で土と触れ合いながら育ち農作業が好きで、小さい時からよく家の農作業を手伝っているうちに、いつの間にか農業を継ぎたいと思うようになったとのこと。高校卒業後の進路も、県農業大学の養成科・野菜コースを専攻しました。「県農業大学校での学生生活は、栽培技術の習得だけでなく、大切な仲間づくりの期間でもありました。」と話す小坪さん。今でも県内各地に就農した友達がいる、連絡を取り合ったり、相談をしたりしているそうです。

県農業大学校を卒業後は、すぐに就農せず、約一年半、市内にある量販店のベーカリー部門で勤務しました。農業を継ぐのは自然な流れだったとはいえ、農業以外の業種で社会経験を積んだことは、就農した今、改めてよかったと実感されています。

● 私の今～就農後の道のり～

小ネギを作りこなし、ハウス1棟を任せてもらいたい

就農した当初は、小ネギの連作障害対策の目的で、京野菜の一つにもあげられる「みぶ菜」を生産していました。主に、小坪さんが担当していたのですが、JA管内でも生産者が少なく、収穫や袋詰めがすべて手作業であり、手間が掛かり過ぎたため、今はいったん作付けをお休みされています。今の小坪さんの仕事は、収穫した小ネギの皮むき洗浄作業です。また、束ねたネギの箱詰作業と出荷の準備もやっています。まずは、小ネギを作りこなす技術習得を当面の目標としていますが、実家での就農だからこそ、両親に栽培技術の習得について相談することに対して、ちょっとした悩みもありました。また、今は作業の分担ですが、近いうちにハウスの何棟かを責任を持って担当してみたいとも考えられています。

● これからの夢、目標

女性農業者同士のネットワークと販売

小坪さんが就農した地域には、残念ながら同年代の女性農業者が非常に少なく、気軽に相談できる相手がほとんどいません。「女性農業者同士のネットワークが作って如果能、いろんなことが相談で

きて、お互い刺激になり共に頑張っていけるのになあ。いつか、そんな女性だけの生産者グループを作れたらいいな。」と話してくれました。

また、自分で作った農産物を自分で販売できたらとも考えられています。「自分で飲食店などに出向いて取引先を探すなど、生産者の顔が見える取引きを大事にすることで、生産に役に立つことがあるのではないかな。」と思っているそうです。

将来、自分が農業経営を受け継いだときには、女性のアイデアで楽しく農業経営が出来る様に頑張りたいとのこと。その時は美味しいと評判だった『みぶ菜』を是非復活させたいと思われています。生産者をもっと増やし、産地化するのが小坪さんの夢です。



プロフィール

■家族構成/本人、父、母 ■営農年数/約4年
■耕作(経営)面積/2.5ha ■販路/全量JA共販(JAみい)

就農を考えている女性へ

私の経験では、今の農業はまだ「男性の仕事」という感じがします。思っても口に出せず、やりたいことがあっても素直に言えない雰囲気があります。さまざまな障害が立ちはだかって諦めている人も多いかもしれません。しかし、農業を一生の仕事としたいという気持ちがあるなら、諦めずに何度も関係機関に相談して、チャレンジして貰いたいと思っています。